

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年4月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月に比べ大幅に減少した。しかし平成17年度の累計出荷量は前年に比べやや増加となった。
	パン・菓子製造業	入学シーズン等の影響から売上はやや増加した。
	織物業	全体的に原材料費の高騰から収益状況は悪化しているが、一部企業において景況の改善が見られる。
	織物業	特に変化は見られないが相変わらず厳しい状況で推移している。
	ねん糸製造業	ナイロンを中心にしたスポーツ衣料及び車輦関係並びにエアバッグ等には依然と根強い需要があるものの、長繊維衣料分野においては依然として縮小均衡の過程を辿り、特に婦人衣料は大きく減退し、先行き長期低迷を余儀無くされる極めて厳しい状況下にある。その他某メーカーが4月出荷分からナイロンとポリエステル長繊維で値上げを実施した。今までメーカーが値上げを行い、産地業界が価格転嫁できたケースは少ない事からこの値上げがどのような影響を与えるか今後に注視したい。
	その他の織物業	各卸商社の受注展示会が終わったが、受注状況が良くなく先行きが厳しい状況である。
	ニット生地製造業	2、3月は季節要因も加わった影響から荷動きは冴えなかったが、4月に入ってようやく荷動きが活発になってきた。
	その他の織物業	4月度は昨年と比べ売上はほぼ横ばいとなったが、依然として底ばいの状態が続いている。期が変わってもこの傾向に変化は見られない。このまま厳しい状況が続くものと考えられる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	前年同月に比べ需要が伸びた様に思われる。
	製材業、木製品製造業	4月度は順当に需要が戻ったようである。
窯業・土石製品	砕石製造業	4月の組合取扱い数量は、生コン向け出荷、合材用出荷のいずれも前年同月に比べわずかに増加となり全体量で4.8%の出荷増となった。生コン向けでは金沢地区が6.9%減少したが、南加賀地区は空港関連工事の影響から40.2%増加し、全体量を支えた形となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	小売店の減少や消費者の購買意欲の低下等から、業界は苦戦を強いられている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、4月末で前年同月比97%とマイナスの出荷量となった。4月の地区状況は、南加賀、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾地区がプラスとなったものの金沢、能登地区はマイナスで推移した。官公需や民需では官公需が相変わらず厳しく前年同月比85.3%、民需は活発に推移して前年同月比107.1%となった。石川県の生コンクリートの出荷量は8ヶ月連続でマイナスとなり、今年度も厳しい状況が予想される。
	粘土かわら製造業	4月度の売上は前年同月比20%減で推移している。考えられる原因として天候が安定しなかった、葺替え工事が行えなかった、大雪の影響から修理作業が多かった(瓦を多く使わない)、新築着工数の減少等が考えられる。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	団地内企業は非常に活況であり好調を維持している。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様に特に変化は認められない。
	鉄素型材製造業	平成17年度は過去5年間の中で最も生産量が高く前年に比べ生産量が10%増加した。自動車産業の好景気を踏まえた機械産業の好調が下支えしたものと考えられる。これからもこの好況の持続に期待するとともに、ユーザーのニーズに応えられる製品造りに努力していきたい。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年4月分)

	鉄素形材製造業	前月同様各指標に変化は生じていない。但し、数ヶ月の実績を勘案するに、今後は売上高は横ばい又は下降する事も予想されている。加えて諸経費(石油等の高騰)の増加が生じており収益を圧迫している。
	機械器具の生産	石油の値上げが材料の仕入れ価格に影響するのではないかと懸念される。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	業種にバラツキはあるものの、総じて仕事量は増加傾向である。工作機械・建設機械の好調が全体の景気を下支えしている。唯一の問題点は人材が不足している事である。
	繊維機械製造業	繊維機械の生産もようやく回復の傾向が見えてきた。工作機械、建設機械、その他一般機械等の需要は旺盛である。しかし、旧来からの発注先との工賃の値戻し・値上げ交渉は依然として厳しく各企業とも徐々に選別受注を模索している。
	プレス、工作機械	機械金属業界全体は大きな変化も無く依然として好調である。工作機械業界は設備投資完了により増産体制が整った。納期は前月と同様にさらなる短縮を迫られている。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	公共事業関連等で一部伸び悩みの傾向が見られるが、自動車関係、電機関係、建設機械関係で需要が増加傾向になっている。鋼材加工関係や精密金型部品加工等でも受注が増加傾向にある。
	機械金属、機械器具の製造	機械業界が好調の為、高水準の生産活動を持續している。生産効率向上運動の影響からロスが少ない操業が目につく。しかし銅合金鑄造業者は銅地金価格の高騰により収益を悪化させており、石油価格の上昇がどのように影響してくるか注視しなければならない。
その他の製造業	漆器製造業	新商品開発意欲の旺盛な一部企業には前年対比プラスのところもあるが、産地全体としては前月に引き続き前年対比10%弱の出荷額ダウンと見られる。椀や盆等のテーブルウェアからアクセサリ等に比重を移して制作を行う蒔絵師も多い。

集計上の分類業種	具体的な業種(産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	景気回復が叫ばれているが、我が業界では感じる事が出来ない。依然として横ばいの状態が続いている。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高の減少はまだ続いている。流通形態の変化により市場経由率がますます減少している。
	一般機械器具卸売業	4月に入り石油価格の高騰から電線の基準ベースである銅が値上がりし、過去に無い電線の価格となっている。電気工事業界でも過去に受注した物件の材料が以前の価格で入らず、赤字に転落する可能性が出ている。今後の石油市場価格により難しい経営になりそうである。
小売業	燃料小売業	4ヶ月連続で仕入高にもかかわらず末端価格の転嫁は不十分である。5月は大幅な仕入高アップで過去の未転嫁分も含め値上げは必至である。
	機械器具小売業	家電メーカー各社の液晶・PDPテレビ、DVDプレーヤーの春モデル新製品が発売され、これら製品に絞った展示会が実施されている。本年7月の「地上デジタルテレビ放送」開始を控え売上は好調である。但し、量販店での旧商品安値処分が行われており、新製品への値崩れの波及が懸念される。液晶・PDPテレビ、DVDが牽引となり売上の伸びは105%を見込んでいる。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	春物の本格的な到来で期待感があつたが、婦人全般及びイレナー(肌着)関係が伸びず苦戦。但し、寝具、紳士関係等で若干の伸びを見せた。また自店の催事で努力により前年比98.8%で推移した。
	鮮魚小売業	今月は全般的に入荷量の少ない日が多かった。魚種も少ない為、仕入れを控える店もあった。業況についても活況であるとは言えない。連休明けからの稼働に期待したい。
	他に分類されないその他の小売業	春の観光シーズンが到来となり、観光客も昨年に比べ増加している。ただガソリンの値上等から旅行の出控えになるのではと危惧している。
	百貨店・総合スーパー	4月の売上は予算比85.9%で前年比89.3%と大幅に下回った。原因の一つとして昨年の催事の売上に比べ、今年は売上が減少した事が考えられる。また4月は予想以上に寒く、ファッション関係の春物商品の売れ行きが悪かった。日別でも後半は前年割れの日がほとんどであった。部門別ではファッション90.8%、服飾74.6%、生活雑貨96.9%、食品94.8%、飲食100%、サービスが90.8%となった。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年4月分)

非 製 造 業		米穀類小売業	例年4月以降は販売数量も若干伸びる傾向にあるが、実態は「家計消費」は前年同月比減少している。一般消費者向けの販売は伸びず、小売業者の廃業者が目立っている。
	商店街	近江町市場	大型連休の人手に期待をしている。
		尾張町	3月末の駆け込み売上で、伝票優先の品物がようやく納入されたものの、すでに売上は前月になっている。忙しいばかりで売上はちょっと、といった状況か。5月の連休は売上が止まるので少しきつい気がする。
	サービス業	旅館、ホテル	昨年は万博の影響等で宿泊客が減少したが、今年はやや出足が好調で、昨年に比べ宿泊客は増加している。
		旅館、ホテル	オフ期に入り、GWや週末等のスポット的に混む日を中心に利用者の誘致を図り、底上げを目指す。
		自動車整備業	継続検査実績車輛数は、前年同月比1.6%減、前月比49.4%減となった。新規検査状況は、前年同月比0.6%増、前月比54.4%減となった。
		旅館、ホテル	4月は既存旅館や新規開業旅館ともに売上は増加した。旅館業界は全体的に売上は増加しているものの、消費額は低下傾向にあり景気回復感を感じる事は難しい。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比24.4%の減となった。内訳は民間土木は4.1%減、民間建築は35.0%の減となり民間としては31.8%の減となった。公共土木は17.3%の減、公共建築は35.5%の減となり、公共としては18.7%の減となった。
		一般土木建築工事業	公共工事の縮減による受注機会が減少するばかりである。またこれに伴う大手企業の進出、企業間の競争激化が起きており、不採算工事が増加している現状である。一方、原油価格高騰に伴う仕入単価の上昇等、人件費以外の経費の増加も影響し、苦しい状況が続いている。
		板金・金物工事業	3月以降、豪雪の影響から家屋の補修工事の受注が増え、景況は好転しつつあるが、全体的には受注単価は厳しく、地元の工務店や元受大工等の仕事は減少気味である。組合員の中にはバブル全盛の頃と比較する者が増えている。今後は営業活動を活発化した組合員には仕事も増える傾向にあると考える。
		管工事業	平成17年度のガス供給工事件数は前年に比べ25.3%増加したが、給水装置工事件数は5.5%減少となった。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油価格がまた値上げされた。どこまでこの値上げが続くのだろうか。運賃転嫁が20%程度されたが焼け石に水の状態である。4月はずいぶん1組合員企業が倒産してしまった。今後がますます心配される。
		一般乗用旅客自動車運送業	天候の影響から今冬のタクシー輸送回数は全体的にはほぼ前年を上回った。しかし、近年の車両台数の大幅な増加が影響して1車当たりの運送収入は思うほど上がっていない。都市部の景気動向とはほど遠く、春先からは再び前年実績を下回る長期低落傾向が続いている。加えて、燃料費の高騰がこの先の展望を一層厳しいものにしている。
		一般貨物自動車運送業	軽油価格が上昇するも運賃価格になかなか転嫁できず収益状況は益々悪化している。運賃価格の値上げ実施に勇気を持って取り組むように組合員に指導を行っている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等